

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 276

事務事業名	乳幼児育成指導事業
-------	-----------

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	こども未来部		
課名	こども家庭課		
課長名	山下 浩典	内線	170
担当者名	森 ふみ	内線	170

基本目標		人を育むまち
政策	010102	子育てしやすいまちづくり
施策		親と子の健康増進
関連施策		

会計	1	一般会計
款	4	衛生費
項	1	保健衛生費
目	1	保健衛生総務費
事業コード	060300	乳幼児育成指導事業

事業類型	4	ソフト事業(任意)
個別計画	第2次健康おおむら21計画	
重点事業		

【PLAN(計画)】

対象(者)	誰(何)に対して事業を行うか 就学前で育児支援を必要とする親子		
意図	対象をどのような状態にしたいか 子どものことばや運動の発達を促す。また、同じような悩みを抱える親同士の交流や専門スタッフのアドバイス等により、育児不安の解消とともに、健全な親子関係の構築を図る。		
事業概要	意図を達成するために実施することは何か 【親子愛あい広場】こどもセンターにおいて週1回(8回シリーズを年間5クール)開催し、感覚遊び等のプログラムを通して、専門スタッフが子育てに関することや子どもの発達等についてアドバイスを実施する。 【ことばと心の相談室】ことばの相談(偶数月2回・奇数月3回)、心の相談(毎月1回)をこどもセンターで開催し、言語聴覚士や臨床心理士による個別相談を実施する。 【巡回相談】幼児健診後、支援が必要と判断された児が通園している保育施設に、保健師等の専門職が出向き、適切な支援に関する指導・助言及び関係機関等の斡旋を行う。		
事業期間	平成 9 年度 ~ 平成 年度	実施方法	直営
根拠法令、要綱等	母子保健法第9・10条、第2次健康おおむら21計画		
国・県補助事業に係る本市単独施策	無		

【DO(実施)】

指標名(上段:名称/下段:算定式等)		単位	25年度	26年度	27年度	28年度	備考
活動指標	① 親子愛あい広場の参加組数(延べ)	計画値	280	280	280	280	
		実績値	272	230	196		
		達成度	%	97.1%	82.1%	70.0%	
	② ことばと心の相談室の相談件数(延べ)	計画値	180	240	220	220	
		実績値	198	198	177		
		達成度	%	110.0%	82.5%	80.5%	
成果指標	① 親子愛あい広場により問題解消や専門機関につながった割合	計画値	100	100	100	100	中断や転出等により支援が中断された組数を除く
		実績値	93	92	97		
		達成度	%	92.9%	92.2%	97.1%	
	② ことばと心の相談室により問題解消や専門機関につながった割合	計画値	100	100	100	100	
		実績値	100	92	88		
		達成度	%	100.0%	92.2%	87.6%	

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	975	1,008	1,026	1,213	1,263	1,263	1,263	0
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源	975	1,008	1,026	1,213	1,263	1,263	1,263	
② 人件費(千円)	4,633	4,633	6,179	6,481	事業内容	事業内容	事業内容	備考
職員人数(人)	0.54	0.59	0.85	0.85				
時間外勤務(時間)	171	87	92	150				
嘱託等人数(人)								
フルコスト(①+②千円)	5,608	5,641	7,205	7,694				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

事業の進捗状況 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	対象者の中には重複した問題を抱えている方がおり、解決するためには多職種の支援が必要とされるため、相談機関の役目としての確かな評価判断を行い、問題に応じて専門機関へつなげていった。
事業が抱える問題・課題等	今後も重複した問題を抱える対象者はいるので、相談機関としての役割を果たしていく必要がある。

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	親子愛あい広場では、親子を対象としており、子どもの育ちを含めた親支援の場として重要である。						
有効性	【市の関与】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	支援が必要な親子は積極的に相談機関や医療機関を利用するとは限らない現状において、市の幼児健診において対象の多くの実態を把握している市が、健診後の一連の継続支援を見据えて主体的に事業実施する必要がある。						
効率性	【事業成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	「親子愛あい広場」「ことばと心の相談室」ともに参加者が多い。支援が必要と思われる就園児に対しても園訪問(巡回相談)を行い、経過を確認している。						
効率性	【施策貢献度】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	「親子愛あい広場」での集団活動と「ことばと心の相談室」での個別相談を対象者に合わせて選択し、状況に応じて適切な対応を行っており、母子保健及び子育て支援の重要な役割を担っている。						
効率性	【コスト】	削減の余地なし		削減の余地あり		該当なし	
	コストの大部分は専門職の人件費であり、削減など見直しは難しい。						
効率性	【負担割合】	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし	
	支援が必要な親子の積極的な参加を促すため、負担を徴収することは適当ではない。						

※事業類型が1～3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入しておりません。

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	現状維持
--------	------

内容 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	早期から心理士などの専門スタッフと関わることで、対象者の内面にある強さや力などに目を向け、問題解決に向けた支援を行う。
効果 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	早期から専門的なかわりを持つことで、対象者自身も重複した問題を整理し、問題解決へと向かう事ができる。

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象外	今後の方向性
	終期設定				終期設定	
	意見等				内容	

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。